地域医療連携だより

独立行政法人国立病院機構
岩手病院　地域医療連携室
TEL：0191-25-2428
FAX：0191-25-2429
http://www.hosp.go.jp/~iwate/
地域医療連携室長　千田 圭二

障害者病棟の質向上

病院長 千田 圭二

「あるシステムの強さは、どれだけ強いかでなく、どれだけ弱くないかで決まる。～」
――*陳浩基（天野健太郎訳）：13・67. 文芸春秋社, 電子書籍, 2017, 30%*

組織を強靱なものにするには、まず弱点を補強して底上げするのが良いのですね。そのうえで（あるいは平行して）質向上を図ります。

岩手病院の病棟５つの内訳は重症神経難病病棟、回復期リハビリを主体とした混合病棟、そして重症心身障害児者病棟３箇であり、すべてが「障害者病棟」です。

入院患者全体に占める重症者の割合は、ここ10数年でかなり増大してきました。超重症者と準超重症者を併せますと、５年以上前に全入院患者の三分の一を上回るようになり、その後も増加しつつあります。人工呼吸器、気管切開、経管栄養など医療介護度が非常に高いため、受け入れる病棟は十分な看護力（人員数と質）を備えていなければなりません。

障害者病棟の基準（障害者施設等入院基本料）を10対１でやってきた当院にとって、これ以上高い医療介護度には対応が困難になりつつありました。当然、上位基準７対１を取得すべき状況です。しかし、７対１取得には看護師を40人近く増員しなければなりません。これは例年の採用者数の３～４倍に当たる大人数です。ただでさえ人員確保が容易でない当地において、しかも地域の医療機関に悪影響を及ぼさないためには可能な限り地域外から募集する必要があるのです。

この難問を解決しようと、１年前から病院を挙げて取り組んできました。具体策は、東北各地の看護学校への訪問、募集合同説明会への参加機会の倍増、病院紹介用DVDの作成、採用試験の回数増、再就職支援研修の実施、近隣医療機関の病棟変更に関する情報収集などです。

その結果、幸運にも期待に見合う応募者数があり、上位基準を満たせる人員をこの４月に採用することができました。今後は、教育システム、キャリアパス、職場環境、福利厚生などを魅力的で充実したものにしていきます。職員が多く定着するようになれば、この地域の医療・介護・福祉の充実にも寄与できるものと期待します。

最後に「岩手病院公開セミナー」について本紙前号以降の状況を述べます。

昨年12月5日に第７回「パーキンソン病の転倒とその対策」、今年2月13日に第８回「重症神経難病患者の在宅診療の実際」、4月10日に第９回「摂食嚥下障害対策：姿勢と食事」（→次頁上段）、をそれぞれ開催しました。次回第10回は6月12日に「パーキンソン病の服薬管理」を予定しています。皆さん、奮ってご参加ください。

岩手病院　常勤医リスト

診療科

呼吸器科
- 副院長　櫻井　誠（産業医）

神経内科
- 医師　小野洋也（日本内科学会認定内科医）
- 医長　今野昌俊（日本神経学会専門医、日本内科学会総合内科専門医）
- 医長　竪山真規（日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医）
- 医長　千田光一（日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、産業医）
- 院長　千田圭二（日本神経学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医）

外科
- 医長　平野貞夫（日本外科学会専門医、日本大腸肛門病学会専門医、産業医）

リハビリテーション科
- 医長　宮　秀哉（日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医）

歯科
- 医長　佐藤　敦（日本口腔外科学会専門医・指導医）

その他の部門

医療安全管理
- 室長　櫻井　誠（併任）

地域医療連携
- 室長　千田圭二（兼任）

栄養サポート／褥瘡対策
- 室長　平野貞夫（兼任）

臨床研究部
- 部長　竪山真規（兼任）

重症心身障害医療センター
- センター長　千田圭二（兼任）

神経筋難病医療センター
- センター長　千田光一（兼任）
- 副センター長　今野昌俊（兼任）

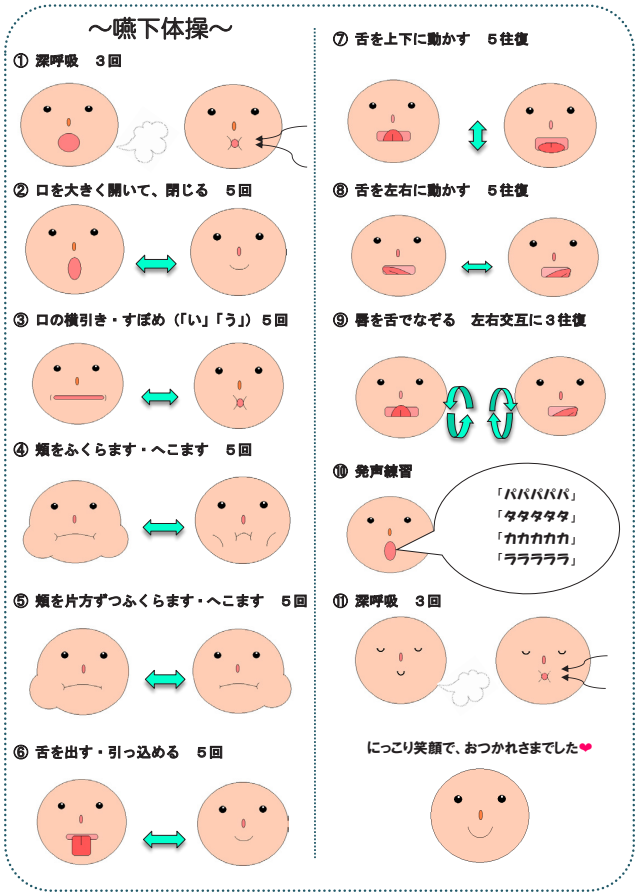
リハビリテーションセンター
- センター長　佐藤智彦（名誉院長）

第９回　ＮＨＯ岩手病院　公開セミナー開催

MSW 専門職　竹越 友則

平成３０年４月１０日（火）「第９回ＮＨＯ岩手病院公開セミナー」を開催しました。公開セミナーを開始して１年以上がたちますが、地域の医療・福祉関係者の方々の参加人数も増えてきて好評をいただいています。今回のテーマは「摂食嚥下障害～姿勢と食事～」で、当院の言語聴覚士・栄養士を講師として開催しました。

摂食・嚥下に関する基礎的な内容から、摂食時の姿勢・食事介助のポイント・食形態の工夫・増粘剤（とろみ剤）の使い方・自宅や施設でもできる「嚥下体操」など、実践でも役立つ内容でした。参加者の多くは訪問介護・福祉施設の調理士や介護福祉士の方々で、質疑応答でも現場での対応方法など多くの質問があり、とても良い機会となったと思います。



岩手病院 ST　作成

未来かなえネットの導入について

MSW 専門職　竹越 友則

平成３０年４月より「未来かなえネット機構」によるＩＣＴシステムの試験導入を開始しました。

この「未来かなえネット機構」は、東日本大震災以降すでに岩手県沿岸部の大船渡市・陸前高田市・住田町の２市１町で導入され実績も積み重ねてきています。当地域では、平成２３年度より地域医療・介護連携推進事業として、「一関市医療と介護の連絡協議会」にて住民活動や情報共有などの医療福祉関係機関の連携を図っています。

今回は、ＩＣＴ導入により医療関係者（病院、医科・歯科診療所、薬局など）・福祉関係者（ケアマネジャー・訪問介護・訪問看護・福祉施設など）の連携を行う関係機関が以前より多くなりますが、患者の医療・介護情報を一元管理し、その情報を共有することが可能となります。このシステムを活用することによって、医療介護サービスの質をより向上できるようにしていこうと思います。

国立病院機構岩手病院　〒021-0056　岩手県一関市山目字泥田山下４８
代　表　TEL：0191-25-2221　FAX：0191-25-2157　　地域医療連携室　TEL：0191-25-2428　FAX：0191-25-2429